

## 古墳の配置

— 聖なるライン説より見た  
天武・持統天皇陵古墳、および高松塚古墳の  
配置の規則性について —

39期

### I テーマの設定の理由

三年目の自由研究は、文献だけに頼る自由研究ではなく自分の足を使って研究したかった。その時、飛鳥の古墳には、「聖なるライン」というおもしろい規則性があるという話を耳にしたので、その考えは正しいのか、正しくないのかを自分で判断してみたかったので、このテーマを設定した。

### II 研究方法

- [1] 国土地理院発行、二万五千分の一地形図を使って、大阪、奈良、京都付近の古墳の配置をながめてみる。
- [2] 「聖なるライン」説についての正しい知識を得る。
  - (1) 大阪駅前第二ビルの朝日新聞記事データベースを利用する。
  - (2) 図書室や図書館の文献を見せてもらったり、話を聞いたりする。
  - (3) 飛鳥地方の博物館で文献を見せてもらったり、話を聞いたりする。
- [3] 「聖なるライン」説以外の説を、上と同じような方法で知る。
- [4] どの考え方が正しいのか判断し、自分なりの結論をだす。

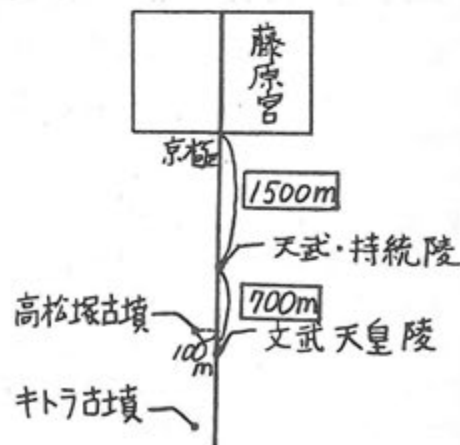
### III 研究内容

- [1] 藤原宮の南に並ぶ古墳の配置についての三説

#### (1) 「聖なるライン」説

高松塚からまっすぐ北に目をやると、中尾山、天武・持統陵、菖蒲池の各古墳が一直線に並ぶのが目につく。そして、その線を北になどると、藤原宮の中央を通る「朱雀大路」へとつながる、ということが以前より知られていた。

そして、高松塚古墳が発見されると、高松塚古墳も、このライン上にのるとして、岸俊男先生が着目されたことから、



マスコミが、「聖なるライン」として、クローズアップしたのである。

高松塚古墳発見後に、高松塚古墳の真南1.1キロメートルの地点にあるキトラ古墳から、第二壁画が発見された。そこには、高松塚古墳の壁画とよく似た、四神の一つである「玄武」がえがかれてあった。

よって、このキトラ古墳が「聖なるライン」の南端に位置するとされ、これによりこの「聖なるライン」説に賛成する人も増えた。

#### (2) 「陰陽五行思想」説

陰陽五行思想は陰陽説と五行説から成り、どちらも道教思想の中で重要な位置を占めている。

##### 《陰陽説》

この考え方は紀元前六世紀の中国（春秋・戦国時代初期）にはすでに存在していた。万物は「陰」と「陽」の二つの元素からできている（二元論）としている。

陰⇒偶数、北、死、暗、雨 を表わす。

陽⇒奇数、南、生、明、晴 を表わす。

↳ ①

##### 《五行説》

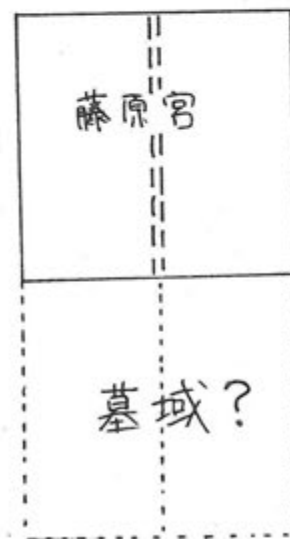
万物は 木、火、土、金、水の五つの元素から成る（五元論）としている。紀元前五世紀末に発生し、紀元前四世紀末に発展した。政治、宗教、医学に大きな影響を与え、古代中国の科学が正当に発達しなかったのは、このためとも言われる。

木=春 =青=東  
火=夏 =赤=南 → ②  
土=土用=黄=中央  
金=秋 =白=西  
水=冬 =黒=北

①、②を見れば分かるように、死者に再び生命が宿るといふ願いをこめて藤原宮の南の墓域（図参照）に葬ったという。

陰陽五行思想は、六世紀ごろ日本に伝来したが、平安時代以降は仏教諸派の弾圧を受けたため、教団の形をとらず、民衆の間で伝えられてきた。

しかし、「青春」「白秋」などの言葉（五行説の影響）や、三月三日、五月五日はえんぎが良い（陰陽説の影響）とするなど、全く影響がないわけではない。



(3) 「地理的要因」説

藤原宮北方は平地であるが、南方は古墳の作りやすい丘である。したがって、藤原宮南方に古墳が多いのは、ただ古墳造りに適したからである、という考えである。つまり、意図的な配置の規則性はない、という考え方である。

[2] 「聖なるライン」説への反論

「聖なるライン」説には、すでに多くの学者から異論がとなえられている。「聖なるライン」説に対しては、今までに次のような疑問点が指摘できる。

聖なるライン派	聖なるライン反対派
<p>争点① 高松塚古墳と中尾山古墳は、なぜ藤原京の朱雀大路の延長線よりも、100メートルほど西へずれるのか？</p>	<p>単なる誤差である。</p> <p>→当時の技術からいって誤差はこんなに大きくならないはず。その証拠に、高松塚古墳よりも南にある文武天皇陵はきっちりラインにのっているではないか。</p>
<p>それでは、それらの二つの古墳は、意図的にラインからはずしたのだ。ちょうどラインにのる古墳が、天皇、皇子クラスの古墳で、そこから少し離れた場所にある古墳がそれに次ぐ身分の人の墓である。</p>	<p>その考え方は、誤差であるという考え方で矛盾する。高松塚古墳のような立派な墓や、草壁皇子の墓がラインからはずれるのは、たいへんおかしい。</p>
<p>争点② 天武・持統陵と文武陵は、「聖なるライン」説の決定的証拠なのか？</p>	<p>藤原宮の皇族が、昔の天皇を思い出すた→藤原宮からは、丘にさえぎられてどの古めにライン上に葬ったと考えられるので藤原宮とそれらの古墳のつながりは非常に強い。</p> <p>墳も実際には見えない。また文武天皇陵は文武天皇の墓ではないと主張する人も多く、決定的証拠とはならない。</p>

その他の疑問点としては、次の三つがあげられている。

- ① 「ライン上にあるから身分の高い人の墓」であるのか、「身分の高い人の墓が続くから聖なるライン」なのかははっきりしない。
- ② 「聖なるライン」の南限が文武天皇陵なのか、キトラ古墳なのかあやふらである。
- ③ 中国・朝鮮はもちろんのこと、日本の他地方にも、「聖なるライン」のような考え方の例が見られない。

[3] 「陰陽五行思想」説への反論

高松塚古墳が造られたのは7世紀末から8世紀初めといわれている。また、陰陽五行思想が日本に伝わったのは、6世紀である。その間100年から200年の時間があるわけだが、宮中に陰陽五行思想が広がっていたとは考えられないのではないだろうか。

なぜなら、藤原宮の時代に、道教の寺院が栄えたという記録はなく、民衆の間では陰陽五行思想は元素論としては広がっていたが、それは一部の民間人の考え方にすぎなかったのだから。

僕らは、その当時の一般的な宗教は、538年ごろ日本に伝来して以来、急速に広がっていった仏教と、古くからの古神道だと推察する。

よって、天皇のなきがらを、都の真南に葬る理由は何もないのではないだろうか。

IV 結論

聖なるライン説、陰陽五行思想共に、根拠はあるが決定的証拠もなく、矛盾も多い。聖なるラインは結局夢であって、古墳の配置は地理的要因にのみよるのではないか。古墳は天皇の墓であるので当然作った時期は数十年ずつずれる。正確な詳しい地図や、情報の保存手段がとほしい時代に、規則を数十年もの後に伝えるのはやはり無理なのではないだろうか。

(堀井)

藤原宮と、その南方に広がる古墳群の間には、配置においては何の関係も、規則性もない。多くの場合、もしくは全ての場合において、古墳の配置に規則性や、謎を見出すことは無理である。古墳の配置は、単に地理的要因だけによって決まると考えてさしつかえないと思う。

(寺本)

僕らの結論には、いろいろ反論もあるだろうし、研究内容にも、矛盾や間違いがあるかもしれない。しかし、いくつかの説を公平に比べてみて僕らは、上記のような結論を取ったのである。これで「古代史のロマン」が一つ消えた、と嘆く人や、自分は「聖なるライン」説が正しいと信じている人もいると思う。しかし、僕らは僕らなりに、上記の結論が正しいということを確認する。

## V 反省

僕は、このテーマで研究するにあたって一つ心に決めていたことがある。それは、他の人の意見を安易に引用して、結論にする、ということはやめよう、ということである。このテーマで研究を始めると、どうしても他の人の意見を引用することは不可欠であるということに気づいた。事実、「聖なるライン」説も、「陰陽五行思想」説も、「地理的要因」説も全て、何年も前から、ある考古学者が主張してきたもので、ぼくらのオリジナルではない。

しかし、だからといって、今年の研究も例年同様の文献丸写しの研究であったか、というところではないと思う。なぜなら、いくつもの説を総合的に判断して出したのが、この研究の結論なのだから。

「文献丸写しではない、自分の足で結論を求めたい」という最初の願いは、完全に達成されたと思う。

最後に、研究に御協力してくださった方々全員、特に、近鉄奈良歴史教室の図書室の皆さんと、高松塚壁画館のみなさんへの感謝の言葉でもって、この研究を終わりたいと思います。

御協力してくださった方々、どうもありがとうございました。

## VI 参考文献

『高松塚論批判』 網元 善教・有坂 隆道・奥村 郁三・高松 三知雄

=資料= 飛鳥地方略地図

